

第3次 妙高市総合計画

概要版

2020(令和2年)～2024(令和6年)

人口減少やグローバル化、ICT化の進展による社会経済情勢の変化などにより、市民生活を取り巻く環境が変化中、時代の潮流を捉えつつ、将来をしっかりと見据え、今までの常識にとらわれない考え方で、新たな課題に的確に対応し、次の時代にしっかりとつないでいくためのまちづくりの指針として、第3次妙高市総合計画を策定しました。

本計画は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく「妙高版総合戦略(第2版)」としても位置付け、国・県と連携しながら重点的に人口減少対策に取り組んでいきます。

基本
理念

生命地域の創造

～ 人、自然、全ての「生命」が輝く妙高 ～



ふるさと妙高を想う人と豊かな自然のつながりを大切にし、全ての「生命」が輝き、真の豊かさを実感でき、安心して「生命」を育むことができる「生命地域の創造」を基本理念に掲げ、次の時代につなぐまちづくりに取り組んでいきます。

持続可能な開発目標「SDGs」の推進

次の時代につなぐまちづくりを進めていく考え方は、平成27年9月に国連総会が採択した「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」の宣言の目指すべき方向性と同じであると考えています。

このため、教育や保健、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズから、インフラ、消費、産業などの経済成長、そして、気候変動や環境保護など様々な課題に取り組むSDGsと、本計画で位置付けた施策との関係性を明確にしなが、持続可能な成長戦略につながる施策を実行していきます。

《 SDGsの17のゴール 》

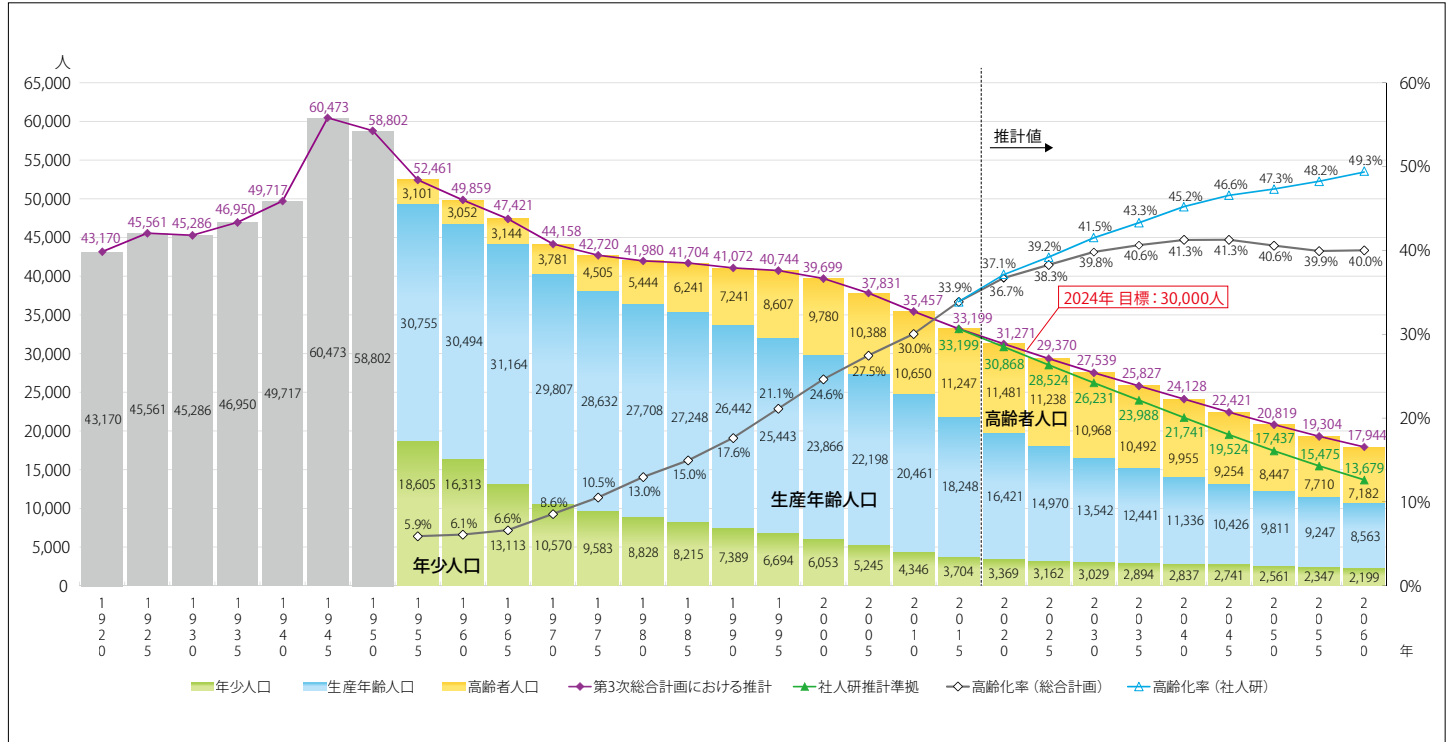


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

妙高市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。
Myoko City supports sustainable development goals.

人口の推移と将来展望

《 妙高市の人口・高齢化率の推移・推計 》



出典：総務省 国勢調査(1920年～2015年)、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供のワークシートによる独自集計(～2060年)

妙高市の総人口は減少が続いており、年齢3区分構成比で見ると、年少人口(0～14歳)は減少、高齢者人口(65歳以上)は増加が続き、少子高齢化が進んでいる状況です。

人口動態を見ると、自然動態では、出生数よりも死亡数が多い状況が続いている上、年々その差が大きくなってきています。社会動態では、転出者数が転入者数を上回っている状況が続いていますが、減少幅は縮小傾向にあります。

今後は本計画で設定する「人口減少問題に関する戦略目標」の視点による積極的な人口減少対策を実施し、出生数の向上による自然動態の改善とあわせ、移住者の増加と定住者の転出抑制を図る取組を進め、社会動態の改善を目指すことにより、2024年の人口総数の目標を30,000人と設定します。

《 妙高市の人口動態 》



出典：新潟県人口移動調査

まちづくりの大綱

まちづくりの大綱 ① 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり

市民生活に必要な都市基盤を安定的・効率的に維持するとともに、災害や雪に強く安全・安心に暮らせる都市環境づくりを目指します。また、防災・防犯に対する市民意識の向上と地域や関係機関等との連携・協力を図り、真に安全・安心な地域社会の構築を目指します。

- 1 生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】
- 2 安全・安心な地域社会づくり【安全・安心】

まちづくりの大綱 ② 美しい自然と共に生きるまちづくり

祖先より受け継がれてきた妙高山麓の魅力ある自然環境を後世に引き継いでいくため、官民一体となって環境保全に取り組み、豊かな生活環境を持続させるとともに、地域資源としてさらに磨き上げ、多くの人たちに親しまれ愛される生命地域妙高を目指します。

- 1 豊かな生活環境づくり【環境保全】

まちづくりの大綱 ③ にぎわいと交流を生み出すまちづくり

妙高市の強みである地域資源を活かした国内外からの観光誘客と受入体制を強化し、世界から選ばれる国際観光都市としての磨き上げを進めるとともに、観光業によって生み出された賑わいと交流を、商工業や農業など地域産業の活力へとつなげ、市内経済の活性化を目指します。

- 1 世界に誇れる観光地域づくり【交流促進】
- 2 活力ある地域経済づくり【産業振興】

まちづくりの大綱 ④ 全ての人が元気に活躍できるまちづくり

市民がいつまでも健康に暮らすことができるよう、健康寿命の延伸の取組や地域における保健・医療・福祉の体制の構築を進めるとともに、自立した社会生活への支援が必要なかたのほか、移住者や外国人定住者など、全ての人がいきいきと元気に活躍できる地域共生社会の実現を目指します。

- 1 市民主体の健康づくり【健康・医療】
- 2 全てを支える地域福祉づくり【福祉介護】
- 3 住民主体の地域づくり【地域づくり】
- 4 全てが平等な地域社会づくり【人権】

まちづくりの大綱 ⑤ 郷土を築く人と文化を育むまちづくり

子どもたちを安心して育てることができる環境づくりと、心身ともに健康で、たくましく生きていくための教育環境づくりを推進し、次の時代を築いていく子どもたちを育てます。また、生涯学習・スポーツなどを通じて豊かな心身をつくとともに、郷土愛の育成を目指します。

- 1 安心して子どもを育てられる環境づくり【子育て】
- 2 質の高い教育環境づくり【教育】
- 3 豊かな心身をつくる環境づくり【生涯学習・スポーツ】
- 4 郷土愛を育む文化のまちづくり【文化】

重点プロジェクト

まちづくりの基本理念「生命地域の創造 ～人、自然、全ての『生命』が輝く妙高～」の実現に向け、人材や財源などの経営資源を有効に活用しつつ、計画期間内で重点的・分野横断的に取り組み、特に成果を上げていく必要がある施策を重点プロジェクトに設定しました。

I 人口減少時代に即した地域経営の推進

人口減少時代においても、医療、福祉、商業などの生活機能を確保し、将来にわたって安心して暮らし続けることができるよう、コンパクトで住みやすいまちの形成とICTを活用した効率的な市民サービスの提供を目指します。

II 未来を担う子ども・若者の育成

人口減少、グローバル化、ICT化の進展など社会・経済環境が大きな変革期を迎えている中、未来や世界を見据えた人材育成を強化し、これからの時代を生き抜き、この地域で活躍する担い手を育成します。

III 生涯現役で健康長寿のまちづくりの推進

人生100年時代を迎え、地域における高齢者の割合が高くなる中、支援が必要なかたを地域の力で支える地域共生社会を築くとともに、市民がいつまでも元気で、地域を支える人材として活躍する社会の構築を目指します。

IV 地域産業の高付加価値化

妙高山麓の自然、食材、歴史文化等の資源を活かした観光産業は、今後も成長が期待される分野であるため、観光産業を基軸とし、農業や商工業へ経済効果を波及させて地域産業全体の付加価値を高めていきます。

人口減少問題に関する戦略目標

国全体の最重要課題である人口減少による社会的変化を見据え、まち・ひと・しごと創生法に基づく地方創生のさらなる充実・強化と地域の特徴を活かした自立的で持続的なまちの創造を推進していくため、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関連する人口減少問題に関する戦略目標を設定しました。

I 社会減に関する戦略

妙高市への移住・定住を促進するため、特に若い世代に対する起業や就業、転出抑制やUIJターンの促進などの支援を充実させていくとともに、まちづくりに多様に関わる関係人口の創出や、首都圏等企業とのビジネスマッチングなどによる雇用の創出と都市圏人材の活用にも取り組み、人口の社会減の克服を目指します。

II 自然減に関する戦略

雇用の不安定化や子育てに対する不安など、子どもを持つことに対する将来への不安を払拭する施策を推進するとともに、少子化の根本にある結婚や出産に対する価値観の変化に対する実情を踏まえながら、「結婚・出産・子育て」に対する支援策を強化し、未来の担い手を確保します。

